



5月5日

お釈迦様のお誕生日

甘茶を飲んでお祝いしました。

大智寺だより

平成 22 年水無月

よく晴れた降誕会 お参りありがとうございました

法要の日にお寺へお参りいただくと、大智寺では甘茶を接待させていただいております。多くの檀家様に甘茶は親しまれており、「法要があると、必ずお寺で甘茶がいただける、お花まつりには よくやかんを持って甘茶をもらいにきたもんだ」というお話を伺うこともたびたび。

そんな大智寺のお花まつり（降誕会）には、やかんではなく空のペットボトルをみなさんお持ちになります。ある方は500ml、ある方は1ℓ・・・こちらもそのつもりでたくさん甘茶を用意させていただいておりますが、あっという間になくなってしまいます。

今回の降誕会では、初めて若和尚が法話をさせていただきました。そこでは、「生まれる」ということの奇跡を、仏様の例え話を通して皆さまにお伝えしました。100年に一度だけ呼吸をするために海面に浮かび上がる亀が、たまたま広い海の上にプカプカと浮かぶ小さな丸太の穴に頭をつっこんだ（頭が穴にはまってしまった…）そんなことってある？

「そんなこと、ありえないよ～」と思わず誰もが思ってしまう・・・

それほど「人として生まれる」とはありえないことなのだよ、と仏様は例え話を通して教えてくださっています。

今一度、「生きていること」を感謝したくなる、そんな降誕会でした。

発行所

大智寺

岐阜市山県北野

668-1

電話：058-229-1532

Mail: hybsr245

@ybb. ne. jp

ホームページ

大智寺検索

[www. geocities. jp/ daiti](http://www.geocities.jp/daiti)

toukai

当紙発行には山口染色様のご支援を
頂きました。

染色するなら 山口染色へ

広がる大智寺の輪

第一期会 その瞬間

津軽三味線っておもしろい

聞いて 弾いて 楽しもう

6月26日 (土) 10時～12時

大智寺にて 参加費三百円

津軽三味線に触れて体験できる

参加型演奏会を行ないます。

最近若者にも人気が高まっている津軽三味線。実際に生演奏を聞いてみると、その叩きつけるような撥さばきに迫力を感じずにはいられません。遠く青森の厳しい海を連想させる音色は、たくさんのファンを魅了しています。

そんな津軽三味線を、今回は演奏を聞くだけでなく、自分で触ったり弾いてみたり・・・と、まるでどこかの三味線稽古場に迷い込んだかのような会を催します。

さて、この津軽三味線の上松先生とは、お寺のご縁あってお知り合いになりました。

「親族を亡くし、自分なりの供養はないものか、と考えていた矢先に津軽三味線で般若心経を謡う音楽を聞きました。それで、のめりこみましたね。これからは、より多くの方に津軽三味線を聞いてもらいたい。そして三味線の美しさ・おもしろさを広く伝えていければと思っています」とのこと。

「供養」というと、お花やお線香、食べ物など思い浮かべがちですが、音楽をお供えし供養とするのも、また素敵だと思えます。

今回来てくださる上松先生は長く津軽三味線をお稽古なされており、現在は岐阜市を中心に各イベント会場や老人ホームで演奏されています。主に津軽民謡、昭和唱歌からロックまで手がける若手の演奏者です。体験用に予備の三味線を持参していただきます。

定員 6名まで (先着順)

お申込は大智寺まで

お花を通して

縁生まれる

大智寺の5月は、新緑まぶしく多くの花々を楽しむことができます。そして甘い香りに誘われて、たくさんの方がいらっしやってくださいませ。

そんな中、リュック姿でお弁当を持って楽しそうに帽子をかぶった2人組み。 「大山蓮華は、まだ咲きませんか？」と。実は、あちこちで絵葉書を描いておいでの方々に、今日は大山蓮華がお目当て。その日は大きなつぼみが今にも咲きそうなの、よく晴れた日でした。日が昇るうちに咲くだろうから、お茶でも飲んで待ちましょうと話も弾み、すっかり大智寺になじんでおられました。そして5月の終わりにお寺にできたてほやほやの絵葉書が届きました。

俳句結社 獅子門

機関誌「獅子吼」創刊90周年迎える

大智寺の小僧だった各務支考が始めた俳句結社 獅子門。30年以上の歴史を誇る同門では全国で40名ほどが活躍しています。

その獅子門の方々が1919年に創刊し、毎月発刊してきた機関誌が創刊90周年を迎えました。5月16日にはその祝賀大会が行なわれ、約140名が集い喜びを分かち合いました。

「俳句」と聞くと、「なんだか敷居が高い」と思われがちですが、この各務支考という方は「庶民にこそ俳句を広めよう」と自らも庶民的な句を作り、気取らず全国を行脚したことで知られています。

今や小学校の授業でも子ども達が俳句に親しんでいる様子を拝見すると、「自然を感じる」と「感じた事を表現すること」の素晴らしさを改めて感じさせられます。6月にはお隣関市の子ども俳句教室の方々が30名程句づくりにいらつしやいます。

毎月の機関誌「獅子吼」は、本堂西の間にご用意しておりますので、どうぞご自由に御覧ください。

今月の一言

記念すべき5月1日、よつやく若和尚は京都の大本山妙心寺にて垂示式を終え、無事に副住職という役職に着くこととなりました。

そんな副住職がこの一ヶ月ほどでびっくりするほどきれいにした場所があります。あまり知られていませんが、大智寺中門を左脇に入るとちょっとした散歩コースがあります。そこは6月になれば紫陽花、秋は彼岸花、ドウダンツツジ、冬は椿と楽しめ、中腹から池を見下ろすことができる場所です。

「きれいになった〜！」「若おくりが歩いてみると・・・」「うぎゃっ！」「クモの巣に引っかけた、けど、確かにきれい。」

もしお時間があれば、ぜひお墓参りの際にもお寄りください。

獅子庵の声

山懸けて
卯の花咲きぬ
須磨明石

支考

6月は雨がしたたる紫陽花の美しい季節です。どうぞおいでください。

大智寺だよりを閲覧できる所 探しております。

「足腰弱くてなかなかお墓にはいけない、だけど大智寺だよりは毎月読みたい」と言う方、「毎月下旬にお墓参りに行くと、いつも大智寺だよりがなくなっていて、さびしい」という方のために、大智寺だよりを閲覧できるように置いてくださるお店や事務所などを募ります。(大智寺だよりは毎月100枚印刷しておりますが、約2週間でお墓の水屋からなくなります。)

～現在大智寺だよりを置いてくださっているお店～

喫茶店ピークアブー様・みさを美容院様

毎月1日に大智寺だよりをお持ちいたします。

若おくりによる 観音さまの会 はじまりはじまり

《 第一回 》



第一回目の観音さまの会は、十一面観音様について資料を元に学んでみました。

「十一面観音様」というと、なんとなく頭に 11 個お顔があるとは知っているけど・・・

いやいや、調べてみるとこの「十一面観音様」っても～っと味わい深い。
11 個のお顔がひとつひとつ表情が異なり、お顔それぞれに意味があること
実は、争いの世界（修羅道）を守る六観音のお一人であること・・・などなど
実に知らなかったことが多くあり、有意義な時間でした。

また、お経の練習では観音様のお経として知られる「大悲呪」（ナムカラタンノー）を
練習してみました。初めて唱える方もおられました、熱心に練習することができました。

座禅会では静かに座ることで、いつもは気にも留めなかった小鳥の声や風の音を
感じることができ、身を整え、呼吸を整え、心を整えることの体験をしました。

《 6月の観音さまの会も 多くの方のお申込をお待ちしております 》

予告：観音さまの読書会・お経の練習・写経奉納体験を1時間程度で行ないます

- ① お一人でもお申込できます（多くても6人程度まで） 持ち物・費用はありません
- ② ご都合のよい日時と参加人数を、若おくりあてにお電話で教えてください